NIE実践報告

1．タイトル：新聞を活用して、東日本大震災について考えよう

2．学校名

兵庫県神戸市立本山第二小学校

3．実践者名（代表者名）

木村清弘

4．学年

5年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳・総合　37名

6．単元（本時の学習課題）名

自分の命は自分で守る　～「津波てんでんこ」新聞を通じて、東日本大震災から学ぶ～

7．目標（狙い）

「釜石の奇跡」が起こった理由を新聞を読み解いていくことで考え、自分の命は、自分で守ろうとする態度を育てる。

8．評価の視点

○「釜石の奇跡」が起こった理由を、新聞をもとに考えることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「希望の一本松」等、震災関係の記事は、随時子どもたちに紹介していき、本単元と関連を持たせていく。
(4時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1.阪神淡路大震災と東日本大震災とを比較する。東日本大震災の被害が広範囲に及ぶことを確認するために、平成23年3月17日付の神戸新聞被害状況マップを活用する。(1時間)
2.江戸時代末期、津波から村人を救った「稲むらの火」を学習する。その際の資料として、4月25日付朝日新聞の記事「広八幡神社」及び10月16日付毎日新聞「稲むらの火　今こそ」を活用する。(1時間)
3.一枚の写真から津波の怖さを話し合う。日本新聞協会賞を受賞した地震直後の3月12日、毎日新聞朝刊に掲載された「3・11迫り来る津波」の写真を活用する。(1時間)
4.東日本大震災発生時の避難率を子どもに予想させるにあたって、神戸新聞4月18日付夕刊のトップ記事を活用する。また、毎日新聞8月12日付朝刊の特集記事を活用して「釜石の奇跡」を学習していく。その際、授業を焦点化し、理解しやすくするために、マップや写真を画像化し、大型テレビで映し出す。避難経路を確認していったり、避難した生徒の動き紹介していったりすることで、「釜石の奇跡」が起こった理由を考える。(1時間)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

○「稲むらの火」の浜口梧陵のことが新聞にのっていたので、びっくりした。梧陵の活躍を今でも伝えていくことで、感謝の気持ちを伝えるとともに、いつ来るかもしれない津波に備えているんだなあと思った。
○「釜石の奇跡」を新聞で学習して、「自分の命は、自分で守る」ことの本当の意味が分かった。

12．成果と課題

○子どもが新聞に興味関心を示し、目を通す機会が増えていった。
○新聞が、ニュースだけでなく、特集を組んだ記事があることに気が付き、積極的に活用しようとする態度が育っていった。
○小学校段階では、難しい漢字が読めないために十分に新聞を読みこなせないのが現状である。そこで教師が支援することによって、子どもたちに分かりやすく内容を捉えさせていく必要が生じるが、なかなか時間がとれなかった。今後新聞を授業作りに生かしていく中で、活用を広げていきたい。